

地震発生の三日間

小川 智豊

十月二十三日いつもと変おらない夕方が終
ろうとしていて、だれもが我が家に集まる頃
そのような平和な時間がとつぜんうばおれて
しまつた。

「ゴゴゴ、ガタガタ、五時五十分、大地震が
発生しました。ぼくの周りでは、家の人かキ
ャー。ワーと体もふるつかせていました。外

山古志小学校

へ出ると寒くて、恐さはちがうふるえも出
てまるで地ごくのようでした。そのうち寝た
い。と言う人が出てきてぼくの父さんがバスを
持てきました。そこで近所や家の人といっ
しよにバスの中で寝ました。

地震発生から二日目。朝おきて山や道を見
てみると、山は半分くずれ、道には地割れが
たくさんありました。空には、自衛隊などの
ヘリコプターが飛でいました。家の近くのお
ばあちゃん畑の作物を使い、飲める井戸水

近所のまきをつかってなんとか御飯を作
 ることができませんでした。避難警告が出たので夕
 食を食べてからすぐに種芋原小学校に行きま
 した。この日は、小学校に泊りました。

地震発生から三日目の朝、五時すぎごろ村
 会議員さんが自衛隊のヘリコプターで長岡へ
 避難することを話しました。それから
 家にもどって一時間五分という少ない時間で
 あれこれ用意や準備をして、種芋原スポ
 ーツ広場からとりあえずの荷物を持ってヘリコプ

山古志小学校

ターで長岡大手高校に避難しました。
 地震発生から一年がすぎて今は、長岡の仮
 設住宅に住んでいます。なんとか山古志とだ
 いたいおなじ生活をしていきますが、色々と不
 満も持っています。けれど、みなさんの応援
 に感謝しながら毎日元気に暮らしています。